

テーマ 1 結婚・出産・子育て支援

テーマをめぐる社会的な状況	
<ul style="list-style-type: none">わが国では、少子化が進行する中で、地域コミュニティの希薄化に伴い、子育てに不安や孤独を感じる家庭が増えています。子どもを安心して産み育てることができる制度や環境づくり、地域で子どもと子育て家庭を支える仕組みなど、未来を担う子どもたちが伸びやかに成長する社会の実現が求められています。	

現況と課題	<p>《結婚・出産・子育て支援》</p> <ul style="list-style-type: none">妊娠や出産・育児に不安を持つ親等のため、健診受診や産後のケア等、出産・育児の不安解消につながる各種支援が必要となっています。出生率の低下が問題となっており、子育て環境の充実が重要な課題となっています。
取組の方向	<p>施策 1 妊娠から子育てまで切れ目ない支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none">女性が安心して妊娠・出産することができるよう、必要な情報を提供し、妊娠中の健康管理を行います。また、乳幼児が健やかに成長・発達するよう、乳幼児健診等の実施や積極的な育児情報の提供等を行います。（子ども支援課・健康増進課・子育て支援センター）育児、家族関係、貧困など子育てについての複合的な問題を、より専門的な相談体制を構築し、一体的に支援します。（子ども支援課・子ども若者相談センター・発達支援相談センター）あげお版ネウボラで実施している妊娠中の生活から出産、子育て期にわたり切れ目ないサポートを充実させるとともに、男性の育児参加を促進します。（健康増進課・子ども支援課・子育て支援センター）

現況と課題	<p>《地域の子育て力》</p> <ul style="list-style-type: none">近所付き合いなど地域の人と人とのつながりが希薄化し、子育て家庭が孤立しており、地域の中で子育てに関する不安や悩みを相談したり、楽しさを共有できる人や場所が求められています。
取組の方向	<p>施策 2 地域における子育て支援の強化と遊び場づくり</p> <ul style="list-style-type: none">子育て家庭の育児不安を解消するため、地域子育て支援拠点やファミリーサポートセンターの活動の充実、関係機関・地域組織と連携した子育てに関する講座や相談等の充実を図ります。（子ども支援課・子育て支援センター）児童館においても子育て相談を実施するとともに、子育て中の親子がつどい、遊びなどを通じて楽しみながら交流できる場として、子育て支援事業を実施しま

資料 3：施策の取組の方向（案）

	す。また、年齢に応じた事業を実施するなど、児童館の講座や事業の内容の充実に努めます。（青少年課）
--	--

現況と課題	<p>《保育》</p> <ul style="list-style-type: none">共働きの保護者が増えており、就労状況に関わらず保護者が安心して子どもを預けられる環境の整備が求められます。施設については保育ニーズの動向を踏まえた整備が必要です。多様な保育ニーズに対応するための保育士の確保、保育内容と環境の整備・充実が必要となっています。
取組の方向	<p>施策 3 就学前保育の充実（保育の質の確保）</p> <ul style="list-style-type: none">園教育・保育施設の運営を支援するなど、保育の内容と環境の整備・充実を図り、保育を必要とする保護者のニーズに対応します。（保育課）保育の質を確保するため、保育人材の育成と処遇改善を図ります。（保育課） <p>施策 4 放課後児童健全育成の充実</p> <ul style="list-style-type: none">保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後に施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与え、その健全育成を図ります。（青少年課）保護者の就労状況等に関わらず、放課後子供教室とも連携し、公民館等を活用して子どもの放課後の遊びや学びの場を提供します。（青少年課）

現況と課題	<p>《経済的負担》</p> <ul style="list-style-type: none">保育や教育、医療をはじめ子育てで生じる経済的な負担を軽減するための支援が必要になっています。特に子どもの貧困対策の面から、ひとり親家庭への支援が求められます。
取組の方向	<p>施策 5 子育て家庭の負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none">子育て家庭の経済的な負担を軽減し、子どもの健やかな成長を支援するため、児童手当の支給や医療費の助成、幼児教育・保育の無償化等を行います。（子ども支援課・保育課） <p>施策 6 ひとり親家庭の経済的な支援と自立支援</p> <ul style="list-style-type: none">ひとり親家庭が安定した生活を送るため、児童扶養手当の支給や医療費の助成、就業のための教育訓練等への助成を行うとともに、母子・父子自立支援員による相談を行います。（子ども支援課）

基本方向 1 明日を担う人が育つまちづくり

現況と課題	《児童虐待》 <ul style="list-style-type: none">子育て中の保護者が孤立することで、虐待につながるおそれもあることから、保護者の悩みの軽減、関係機関・団体等と連携した虐待発生の予防や早期発見が必要です。
取組の方向	施策 7 児童虐待の防止 <ul style="list-style-type: none">児童虐待の予防、早期発見、早期対応のため、子ども支援ネットワーク内の連携強化し、虐待につながるおそれのある家庭への支援を行います。また、子どもや保護者からの相談窓口（面談、電話等）や児童虐待の防止のための地域での見守りについて周知を行います。（子ども・若者相談センター）

基本方向 1 明日を担う人が育つまちづくり

テーマ2 教育

テーマをめぐる社会的な状況	
<ul style="list-style-type: none">変化が激しい未来を生き抜くためには、確かな学力を基礎にし、自ら問いを立て、解決する力とともに、他者を尊重し協力することで社会の一員としてたくましく生きていく力を育むことが必要です。そのためには、教職員の資質向上や教育環境の整備ともに、地域との連携が重要です。	
現況と課題	<p>《時代に応じた教育内容》</p> <ul style="list-style-type: none">子どもたちを取り巻く社会や環境が変化する中、子どもたち一人一人の「生きる力」を支える確かな学力や、変化に柔軟に対応できる自立する力、課題を発見・解決する力を育成する必要があります。また、小学校は2020年から、中学校は2021年から全面実施される新学習指導要領に対応した教育を行う必要があります。グローバル化が進む中、自国の文化に誇りを持つとともに、異なる文化背景の人達と協力しながら国際社会で活躍できる力が必要とされています。学力とともに、公共の精神、多様性を尊重し他者を思いやる気持ちや、感謝する心などの豊かな心も求められています。
取組の方向	<p>施策1 確かな学力と豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none">児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるため、客観的・経年的な学力の把握と指導への活用、学校ごとの学力向上プランの作成・実践を進めます。また、各学校へのアッピースマイルサポーター配置によるきめ細かな教育を行います。（学務課・指導課）ICTの活用等による、オンラインを含めたわかりやすい授業の展開や、プログラミング教育による論理的思考能力の育成、メディアリテラシーの醸成など、Society5.0時代において必要な能力の育成に努めます。（指導課）時代や環境に対応した適切な進路指導、発達段階に応じたキャリア教育の実施や職場体験活動を行います。（指導課）児童生徒に社会性や道徳性を身に付けさせるとともに、多様性を尊重し他者を思いやる心など豊かな心を育む活動の推進を図ります。また、家庭や地域、関係機関と連携した非行・問題行動の防止に取り組みます。（指導課）

現況と課題	<p>《特別な支援が必要な児童生徒》</p> <ul style="list-style-type: none">いじめ・ネット依存からの昼夜逆転生活により、不登校児童生徒が増加しており、個別の原因に対応した相談支援体制を強化する必要があります。特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、学習上または生活上の困難を克服し、自立を図るための教育を推進する必要があります。日本語の理解が十分でない児童生徒に対し、日本語学習の支援が必要です。
取組の方向	<p>施策2 誰もが支援を受けられる環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none">不登校・いじめ・発達等に課題を抱える児童生徒及び保護者の悩みや心理的負担を軽減するため、スクール・ソーシャルワーカーによる家庭訪問や教育センターでの教育相談、学校適応指導教室での指導などにより、社会的自立に向けた支援を行います。（教育センター）障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学べるよう、個人の特性に応じたきめ細かな指導など、インクルーシブ教育の理念に基づく教育の推進と学習環境の整備を行います。（学務課）児童生徒一人一人が充実感・達成感を持ち、生きる力を身に付けられるよう、研修の充実による教職員の資質向上、特別支援学級や通常の学級への補助員・支援員の配置を行います。（学務課・指導課・教育センター）日本語の理解が十分でない外国人等の児童生徒に対し、日本語の習得や支援のため、日本語の指導員を配置します。また、日本の生活文化への適応を支援するとともに、日本人児童生徒に対しても、異なる文化への理解を促します。（学務課）
現況と課題	<p>《児童生徒の運動の習慣化》</p> <ul style="list-style-type: none">運動をする子どもとしない子どもの二極化の進行や、少子化に伴う運動部活動数の減少等により、児童生徒の運動の習慣化が重要な課題となっています。そのため、学校教育だけでなく社会体育の面からも、子どもたちにスポーツに親しむ機会を提供することが必要です。
取組の方向	<p>施策3 健康保持・増進</p> <ul style="list-style-type: none">心身ともに健やかでたくましい児童生徒を育成するため、日常の健康観察、定期健康診断等により児童生徒の健康の保持・増進を図るとともに、体力分析や体育的行事・部活動の充実、体育・部活動支援の充実により児童生徒の体力向上を図ります。（指導課・学校保健課）

基本方向 1 明日を担う人が育つまちづくり

現況と課題	《安心安全な教育環境》 <ul style="list-style-type: none">● 少子化や宅地開発等による地理的な状況の変化などにより、学校間の規模に差が生じており、地域の実態に応じた学校規模の適正化を図ることが必要です。● 事故や犯罪被害防止のため、登下校時や学校内での児童生徒の安全を確保するとともに、災害時における適切な行動を促す防災教育が重要です。
取組の方向	施策 4 児童生徒の安全確保 <ul style="list-style-type: none">● 児童生徒が適切な規模の教育環境で学べるよう、地域の実情を考慮しながら通学区域の変更等を行い、学校規模の適正化を図ります。(学務課)● 登下校時や校内での児童・生徒の安全を確保するため、青色防犯パトロールをはじめとした見守り活動や防犯ブザーの貸与などを行うとともに、児童生徒に対し交通安全・防犯について指導の徹底を図ります。(学校保健課)● 災害時にいのちを守る行動を自主的にとれるよう、防災教育を推進するとともに、地域コミュニティとの連携を通じて助け合いの精神を育みます。(指導課)

現況と課題	《学校施設》 <ul style="list-style-type: none">● 学校施設更新計画に則り、学校施設の維持管理を計画的に行っていく必要があります。● Society 5.0 時代において時代に取り残されないように、PC 環境の充実など教育施設の充実が求められます。
取組の方向	施策 5 安全な学校施設と施設の充実 <ul style="list-style-type: none">● 「持続可能な教育環境づくり」を主眼として、学校の適正規模のあり方などのマネジメントの基本的な考え方や方向性を示すとともに、学校施設の環境整備、老朽化対策、計画的な施設配置等を行っていきます。(教育総務課)● パソコンを児童生徒にひとり一台配置する GIGA スクール構想を推進するなど、ICT 機器の導入により、児童生徒一人一人の教育的ニーズ、理解度に応じた学習の推進と児童生徒の情報活用能力育成を図ります。(指導課・教育総務課)

現況と課題	《教職員の資質向上と地域との連携》 <ul style="list-style-type: none">● 質の高い学校教育を推進するためには、常に研究・実践を重ねて指導方法の工夫・改善を図り、教職員の資質・指導力の向上により、学校の教育力を高めることが必要です。● 魅力ある学校づくりのために、教育目標の実現に向けて経営方針等を明確にすることや、地域の実態を生かし、家庭や地域、関係機関、地域内の学校等と連携・協力を図っていくことが求められています。
-------	---

取組の方向	施策 6 魅力ある学校づくりの推進及び教職員の資質・能力の向上 <ul style="list-style-type: none">● 教職員の資質・指導力を高めるため、分野別・年代別研修の充実などを図るとともに、委嘱研究の推進を図ります。(指導課)● ICT の活用や事務作業の効率化により、教職員の業務負担を軽減することで、教職員が能力を存分に発揮できる勤務環境を整備します。(学務課)● 魅力ある学校をつくるため、学校の経営方針や教育指導の重点・努力事項を明確にするとともに、各小・中学校で、教育研究を推進し、創意工夫を生かした教育活動を展開します。(指導課)● 市内の全小中学校が、コミュニティースクールとして、地域全体で子どもを育てていく環境を整えます。家庭や地域との連携、幼保小の連携、中学校区による小中一貫教育の推進を図るとともに、各校の学校運営協議会委員に対する研修や、学校運営協議会間の情報交換等の支援を強化します。(指導課)
-------	--

現況と課題	《経済的支援》 <ul style="list-style-type: none">● 経済的な理由などにより就（修）学が困難な児童生徒や学生が就（修）学・進学できるよう支援が必要です。
取組の方向	施策 7 進学・就学等に対する支援 <ul style="list-style-type: none">● 経済的な理由により修学が困難な生徒や学生が進学・修学できるよう、入学準備金や奨学金の貸付を行います。(教育総務課)● 経済的な理由により就学が困難と認められる児童生徒が就学できるよう、保護者に対し学用品費などを援助します。(学務課)

基本方向 3 支え合う安心なまちづくり

テーマ 1 福祉を支える体制

テーマをめぐる社会的な状況

- 家族や地域のつながりが希薄になる中、一人ひとりの抱える問題は複雑化・多様化しています。高齢者や障害者、子どもや子育て家庭をはじめ誰もが地域で安心して生活を送ることができるよう、地域全体で互いに助け合い、支え合う仕組みや活動の活発化が求められています。

現況と課題	《地域福祉》 <ul style="list-style-type: none">● 一人ひとりの福祉ニーズに対応し、複合的・分野横断的な課題にも対応できるよう、制度ごとのサービス提供に限らず、包括的な支援体制の構築が必要となっています。
取組の方向	施策 1 地域福祉活動の推進 <ul style="list-style-type: none">● 市民が地域で安心して生活できるよう、福祉サービスの適切な利用を推進するとともに、地域福祉を推進する事業を支援します。(福祉総務課)● 民生委員・児童委員が地域福祉活動の中核として活動できるよう、研修や環境整備を進めます。(福祉総務課)● 市民一人ひとりが地域福祉の担い手であるという意識を高め、地域福祉活動への市民参加を促進することにより、人材の確保と育成を図ります。(福祉総務課)

現況と課題	《相談体制》 <ul style="list-style-type: none">● 支援を必要とする人が必要な福祉サービスを適切に利用できるよう、気軽に相談できる場やワンストップで対応する仕組みづくりが求められています。
取組の方向	施策 2 相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none">● 子育てや介護、認知症、障害など、日常生活での様々な困り事について、気軽に相談できるよう、地域の人材や各種機関などの窓口の周知・啓発を図るとともに、福祉の総合窓口を設置します。(健康福祉部)

基本方向 3 支え合う安心なまちづくり

テーマ 2 高齢者福祉

テーマをめぐる社会的な状況

- 団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には後期高齢者の急速な増加が見込まれる中、高齢者が地域で安心して自立した暮らしを続けるために、地域包括ケアシステムを深化・推進していくことが重要となっています。また、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることのできる環境が求められています。

現況と課題	<div>《地域包括ケア体制》</div> <ul style="list-style-type: none">● 高齢者の急増による介護需要の増加や介護者の不足が見込まれる中、住まい・医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの深化と推進が求められています。● 地域包括ケアシステムの推進にかかる在宅医療の充実と介護分野や地域のボランティア等の人材を確保・育成することが必要です。● 近隣の助け合いやボランティア等の「互助」の重要性を改めて認識することが必要です。● 認知症に関する知識や対応方法について地域の理解を深めるとともに、認知症の早期発見・早期対応が必要となっています。
取組の方向	<div>施策 1 地域包括ケアシステムの推進</div> <ul style="list-style-type: none">● 地域包括支援センターの機能強化を図り、総合的な相談に応じるとともに、社会福祉協議会等の関係機関と連携し、身近な地域で気軽に相談できる体制を充実します。（高齢介護課）● 高齢者が適切な医療と介護を地域で受けられるよう、在宅医療の充実と介護分野や地域のボランティア等の人材確保を図ります。（高齢介護課）● 地域の見守りネットワークづくりや地域における生活支援の体制整備などを推進するとともに、「互助」の重要性について啓発・周知します。（福祉総務課・高齢介護課）● 認知症の高齢者が安心して暮らし続けられる環境を整備するため、認知症サポーター養成講座等の啓発活動を行い、地域住民の認知症への理解を促すとともに、家族による介護を支援します。（高齢介護課）

現況と課題	<div>《介護保険》</div> <ul style="list-style-type: none">● 高齢者が介護を必要とするようになって、地域で安心・安全に暮らし続けていくため、必要なサービスの基盤整備や支援体制の充実が求められています。● 現在の介護分野における人材不足は深刻であり、また、2025 年以降、担い手となる現役世代の減少が顕著となる中で、高齢者を支える介護人材の確保が必要です。
取組の方向	<div>施策 2 介護保険サービスの充実</div> <ul style="list-style-type: none">● 介護を受ける高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、介護施設を計画的に整備するとともに、在宅介護を推進し、介護保険サービスの充実を図ります。（高齢介護課）● 介護人材の確保や介護業務の効率化を目指した取組を強化します。（高齢介護課）

基本方向 3 支え合う安心なまちづくり

テーマ3 障害者福祉

テーマをめぐる社会的な状況
<ul style="list-style-type: none">● 障害の重度化や高齢化が進行し、障害者やその家族には保護者が亡くなった後の将来の生活に対する不安が広がっています。ノーマライゼーションの考え方の下、障害に対する理解を促し、障害のある人もないひとも、互いに支え合い、地域でいきいきと暮らす社会の実現を目指すことが重要となっています。

現況と課題	<p>《療育支援》</p> <ul style="list-style-type: none">● 子どもの発達段階に応じた相談や訓練を、希望通りに受けることができる機会を提供することが求められています。● 近年医療的ケア児が急増しており、医療的ケア児の受け入れ先の確保が求められています。
取組の方向	<p>施策1 障害児の療育支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none">● 障害児の地域生活を支援するため、発達支援相談センターでの専門員による個別の発達訓練・相談や、つくし学園での療育訓練を行います。（発達支援相談センター）● つくし学園を子ども・子育て支援複合施設に移設することで、受入れ体制の充実と通園環境の改善を図るとともに、保育園児との自然な交流による共生を育みます。（発達支援相談センター）● 医療的ケア児については、地域での保育や教育の受入体制の整備に向けた協議・検討を行うとともに、医療的ケア児やその家族の負担軽減を図るための支援を行います。（障害福祉課・健康増進課・保育課・指導課）● 児童発達支援や放課後等デイサービス等の障害児通所給付を行います。

現況と課題	<p>《自立支援》</p> <ul style="list-style-type: none">● 障害者福祉の第一歩は障害について正しく理解することであり、市民の障害への理解を深め、差別や偏見を解消することが必要です。● 障害者に関する相談は、ケースにより対応が異なることから、きめ細やかな相談支援体制が必要であり、相談支援を担う人材の育成や連携などが課題となっています。● 障害者が地域で生活するための支援に対するニーズは幅が広いため、個々のニーズに応じたサービスを適切に提供する必要があります。● 障害者が安心して快適に移動するためには、ユニバーサルデザイン及びバリアフリーを考慮した環境の整備が課題となっています。
-------	--

取組の方向	<p>施策2 障害者の自立支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none">● 障害について市民に正しい認識を持ってもらうため、研修や講習会を実施するとともに、障害者との交流を目的としたふれあい広場や、障害者手づくり市などのイベントを開催します。（障害福祉課）● 障害者とその家族が抱える問題を解決するため、桶川市・伊奈町とともに共同設置した基幹相談支援センターを地域における相談支援の中核に、障害者生活支援センター、身体障害者・知的障害者相談員等と連携し、地域の相談支援体制の質の向上を図ります。（障害福祉課）● 障害者が地域において自立した生活を送るため、障害の特性やニーズに応じた自立支援給付・医療費の助成等を行います。（障害福祉課）● 誰もが安心して快適に生活できる環境とするため、建築物や道路・公園など、市全体のユニバーサルデザイン・バリアフリー化を推進します。（都市整備部）
-------	---

現況と課題	<p>《就労支援》</p> <ul style="list-style-type: none">● 障害者の就労率の向上や給料（工賃）の向上が課題となっています。● 就職後も障害者本人と家族、就職先の企業に対し、継続して就労できるような支援が必要です。
取組の方向	<p>施策3 障害者の就労の支援</p> <ul style="list-style-type: none">● 障害者の社会的自立を促進するため、障害者就労支援センターで就労を希望する障害者の就業面や生活面の相談支援を行います。また、障害者就労施設の製品販売等に対して品質向上や販売機会の確保などを支援します。（障害福祉課）

基本方向 3 支え合う安心なまちづくり

テーマ4 生活福祉

テーマをめぐる社会的な状況	
<ul style="list-style-type: none">● 近年、児童、高齢者、障害者などの個々の問題が、1つの世帯の中で複雑に絡んだケースや、生活ニーズの多様化から、いわゆる「制度の狭間」にあてはまる潜在的な生活困窮者のほか、国では6人に1人の子どもが貧困状態にあるとされており、特にひとり親家庭では、実に半数以上が貧困状態に該当し、その割合は年々上昇し続けています。● ニートやひきこもりの長期化・高齢化が問題となっています。健康や人間関係に問題を抱えていたり、生活に困窮している人が、地域で孤立してしまうことのないよう、適切な支援につなげることが重要となっています。	
現況と課題	《生活困窮》 <ul style="list-style-type: none">● 生活保護に至る前の自立支援策を強化するとともに、生活保護から脱却した人が再び生活保護に頼ることのないようにする必要があります。
取組の方向	施策1 生活困窮者等への支援 <ul style="list-style-type: none">● 生活保護に至るおそれがある人で、自立が見込まれる人を対象に、困りごとに係る相談に応じ、安定した生活に向けて仕事や住まい、子どもの学習などさまざまな面で支援を行います。(生活支援課)● 生活保護受給者の自立を促すため、生活支援、就労支援等を進めます。(生活支援課)
現況と課題	《ニート・ひきこもり》 <ul style="list-style-type: none">● ニートやひきこもりの状態にある一人ひとりの事情を考慮し、本人や家族の悩みを軽減し、自立に向けて支援することが必要です。● 子どもと若者のニートやひきこもりの長期化が「8050問題」へ繋がることから、社会から孤立しないために早期からの支援が必要です。
取組の方向	施策2 ニート・ひきこもり対策 <ul style="list-style-type: none">● ニートやひきこもりの子ども・若者やその家族の悩みを軽減するため、専門家による相談を行うとともに、相談の内容に対応した関係機関への橋渡しを行います。(子ども若者相談センター)● ニートやひきこもりの長期化を防ぐため、気軽に相談できる場をつくり、自立に向けた支援を行います。(子ども若者相談センター)